

Creative Art Mix 作・編曲者からのコメント

■1部 クラシック名曲のアレンジ

1. Opening ~ 白鳥の湖 Creative Art Mix~ / 編曲:小野健悟

「白鳥の湖」の「情景」を軽快なフュージョンでという指定でした。中々意図したフュージョン感を出すのは難しかったのですが、曲調はクールな感じで EWI(ウインドシンセ)を導入してアレンジしてみました。曲作りも EWI を吹くのもとても楽しかったです。(小野)

2. グノー「アヴェ・マリア」 / 編曲:小野健悟、DJ TAMA

唯一この曲のみ DJ TAMA さんと共同アレンジということで制作させて頂きました。TAMA さんのスタジオへお邪魔し、アイデアを出し合いながら作業をおこない、とても楽しかったです。色々な要素が詰まった素敵な曲ですのでご堪能頂けたら幸いです。(小野)

ドラムを先に組んで小野健悟さんにフレーズを弾いてもらって作りました。ドラムのちょっとズレてもたれた感じは、デモの段階の Beat と一緒ですね。(TAMA)

3. 組曲「惑星」より「木星」 / 編曲:小野健悟

他の曲もそうですが、原曲が触る余地が無い程緻密に凝った素晴らしい作りになっているので、アレンジがとても難しかったのですが、何とか自分の色で再構築出来たかなと思います。ワクワクしながら展開してゆくストーリーや変化が面白いです。(小野)

4. 亡き王女のためのパヴァーヌ / 編曲:小野健悟

メロディーがとても美しく、いかに美しさをそのままにかつ、単調にならずストーリー性を表現出来るかがポイントでした。メロディーの美しさとドラマティックな演奏を楽しんで頂けたら嬉しいです。(小野)

5. 交響曲第 5 番「運命」/ 編曲:DJ TAMA

題材が有名すぎるのでどのように料理して良いか迷いに迷って、最終的にストリングスの疾走感を一番良い方法で活かすアレンジをしたいと思いました。試行錯誤の末、ドラムベースというジャンルの手法を取り入れて制作しました。気に入っている楽曲の一つです。(TAMA)

6. 革命のエチュード / 編曲:DJ TAMA

この曲を聞いた時にエアロビクスな感じがして、80's の POP にアレンジしたら良いのではと思い、アレンジを進めました。シンセの音色、シンセベースの音色、ドラムの音、掛け声などやりすぎなくらい 80's 感を強調して制作しました。郷翠さんにはこの辺のことは伝えてなかったんですが、パフォーマンスは素晴らしすぎて最初見た時にやばい！と声が出てました。(TAMA)

7. 剣の舞 / 編曲:小野健悟

この曲もメロディーと曲調のインパクトが余りにも強く、余程のアイデアが無いと触るのは困難だったのですが、うまくリズムの面白さを生かしてアレンジさせて頂きました。力強くプログレ感を全力で出してとても楽しい演奏になっています。(小野)

8. レクイエム/ 編曲:DJ TAMA

「Creative Opera Mix」の「天国と地獄」のようなアレンジを目指して、ダンサーさんが展開をつけやすいように、細かい音の配置にこだわって作りました。ダンサーの皆さんは、見事にその音一つ一つを振り付けに昇華して表現してくれていてとても良いセッションができたなと思いました。激しく展開していく音とダンスの融合を楽しんでください。(TAMA)

■2部 SWAN LAKE BEYOND より

1. Introduction(序奏)/ 編曲:小野健悟

最初は原曲のクラシックに寄せたアレンジだったのですが、もう少し崩しても良いとのオーダーがあり、聞きやすくカジュアルな感じにしてみました。ピアノは連弾になっており、美しいメロディーや荘厳な感じから柔らかくなる演奏を楽しんで頂けたら幸いです。(小野)

2. Scene-Ambient(転生)/ 編曲:小野健悟

この曲は訳の分からないアンビエントの感じというオーダーを頂き、抽象的なアンビエントサウンドにしてみました。意外と苦労せず、さっと作った割には面白い感じになっていると思います。(小野)

3. Queen and Prince Dance(憧れ)/ 作編曲:小野健悟

王子がマザコンで淫らな感じを表した大人の感じのジャズ。オリジナル楽曲というオーダーでしたので、アダルトな感じを漂わせつつ、曲自体はコンテンポラリージャズ、という感じで作ってみました。(小野)

4. 心の誘惑 / 編曲:DJ TAMA

最初に Hip Hop をベースにした楽曲を作ったのですがイメージとの相違があり、ボツにして、新たに作り直したのがこの曲です。歌のフレーズを細かくエディットして四つ打ちのハウスミュージックのビートに乗せました。リクエストを聞いた上で、イントロから2段階で BPM が変わる仕掛けを作りました。物語のストーリーを語る上で重要なシーンの曲となっていたのでとても嬉しかったです。最後の混沌とした雰囲気を作るためにここでもまたドラムベースというジャンルの手法を使いました。(TAMA)

5. Scene-OdetteAppears (情景/オデットの登場) / 編曲:小野健悟

最初はオーソドックスなクラシックだったのですが、やはりもう少しカジュアルに！ということだったので、現代寄りのポップな雰囲気も入れつつアレンジしてみました。ジブリ音楽のような聴きやすさを感じて頂けたら嬉しいです。(小野)

6. Rothbart Battle (移り気) / 作編曲:小野健悟

激しくバトル的な曲をオリジナル楽曲で、とのオーダーでした。これも結構悩んだのですが、Creative Art Mix は映像、ダンス、音楽の文化のバトルでもあるので、思い切って遠慮無くこちらの音楽のフィールドをぶつけてみよう！と思ひまして、7/8 拍子、ドラムベースの Club ジャズテイストな曲になりました。曲調としても戦いの雰囲気を感じて頂けたら幸いです。(小野)

7. Scene-Broken Oath (情景/破られた誓い) / 編曲:小野健悟

この曲も激しくロックテイストで白鳥の強さを表してほしい、とのオーダーでした。割と分かりやすく激しく、クールでエレクトロニック・ロック調の感じにアレンジしてみました。頭の中で戦いシーンを思い浮かべながら聞いて頂けたら幸いです。(小野)

8. Queen and Prince Dance (狂気) / 作編曲:小野健悟

3 曲目の曲を更に淫らな感じと狂気度を増して、とのオーダーでしたので、3 曲目のオリジナル曲をベースに、ダブ、アブストラク的なテイストを増してアレンジしました。演奏も自由で相当面白かったです。(小野)

9. Lament (情景/オデットの嘆き) / 編曲:小野健悟

サウンドトラック的な感じで悲しみ、嘆きを表現、とのことで、「白鳥の湖」原曲をベースに映画のエンディングに流れそうな、悲しみと色々な思いが交差している感じの曲をイメージしてアレンジしました。(小野)

10. Last Battle-Finale (フィナーレ) / 編曲:小野健悟

この曲はとにかくドラマティックで、激しい戦いがあり、悲しみを超えて最後は愛が勝つ、みたいなシーンの変化を表現しました。後半は「白鳥の湖」原曲、グランドフィナーレとなるように、という内容だったのですが、とにかく詰め込むバランスが大変でした。壮大なサウンドをバンドで表現するのも大変だったのですが、何とか工夫出来たかなと思います。表情豊かな演奏を楽しんで頂けたら嬉しいです。(小野)